



平成 29 年 9 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社ジーンテクノサイエンス
代 表 者 名 代表取締役社長 谷 匡 治
(コード番号：4584 東証マザーズ)
問 合 せ 先 執行役員管理部長 上 野 昌 邦
兼 経 営 企 画 室 長
(TEL. 011-876-9571)

新規メカニズムに基づく新生血管形成を阻害する 新規抗体に関する特許出願のお知らせ

当社は、新規メカニズムに基づく新生血管形成を阻害する画期的な新規抗体医薬品の候補抗体（当社開発コード：GND-004）の創出にこのたび成功し、それに関する特許の出願をいたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

当社は、バイオ後続品（バイオシミラー）事業による経営の安定性及び再生医療事業並びにバイオ新薬事業による成長性を追求するハイブリッド型事業を推進しております。とりわけ、近年は日本国内で先んじてバイオシミラー事業を推し進め、日本の社会医療費の削減に貢献してまいりました。これと並行して、バイオ新薬事業においても当社研究所で着実に創薬研究を進め、今般、その一つの研究成果として、革新的な抗体の創出に結実いたしました。今後も、バイオシミラー事業で安定的な収益を上げながら、再生医療事業及びバイオ新薬事業で大きな成功を成し遂げるといふ当社独自の経営方針を確実な形にしてまいります。

記

1. 発明の概要

当社は、信州大学大学院医学系研究科の新藤隆行教授の研究グループ及び国立研究開発法人理化学研究所横山構造生物学研究室の横山茂之上席研究員の研究グループと共同研究を行い、この度、Gタンパク質共役型受容体シグナルを標的とし、血管増殖性ペプチドによる細胞内サイクリックAMP増加活性及び新生血管形成を抑制する抗体を作製することに成功しました。

この抗体は、超高齢化社会が進み、近年日本国内でも患者数が増加している滲出型加齢黄斑変性症と呼ばれる眼疾患への治療効果が期待されます。さらに、多くの患者様が苦しめられているがん領域における抗腫瘍効果も同様に期待できます。また、本抗体は、従来の医薬品、例えば、VEGF（血管内皮細胞増殖因子）阻害剤とは違ったメカニズムで治療効果をもたらす可能性があり、当社のバイオ新薬事業の新たな医薬品候補と位置付けています。

2016年のVEGF阻害剤の全世界の市場規模は眼科治療領域で9,500億円程度、がん領域で7,000億円程度と見込まれております。本抗体を用いた新薬の開発により、新たに眼疾患やがん罹患された患者様のみならず、既存のVEGF阻害剤で治療効果が得られず別の治療選択肢を心待ちにされている患者様の多くの方々へも新たな治療選択肢の可能性が広がる意義は非常に大きいものと考えております。

当社は、この抗体には幅広い事業展開の可能性が秘められていると認識しており、速やかに特許出願することで知的財産権の確保を図りつつ、今後は抗体に関する各種薬効試験等研究開発を進めるとともに、並行して製薬企業への早期のライセンスアウトを目指してまいります。

2. 今後の見通し

本件による当社の平成 30 年 3 月期の業績への影響は軽微の見通しであります。

3. 用語解説

- ・ Gタンパク質共役型受容体 … 細胞質内でGタンパク質が結合しており、受容体にリガンドが結合するとGタンパク質を通して情報を伝達する受容体のこと
- ・ VEGF阻害剤 … モノクローナル抗体や分泌型受容体融合タンパク質により血管内皮細胞増殖因子（VEGF）の働きを抑制することで、新生血管形成を阻害し、腫瘍の増殖や転移を抑制する作用を持つ医薬品の総称

以 上